

講義コード	14D2220000
講義名称	西洋経済史Ⅱ <秋>
科目英文名	Economic History of Europe Ⅱ
代表ナンバリングコード	ECON1500
単位数	2.0
時間割	秋学期: 金曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

## 担当教員

氏名
豆原 啓介

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	19世紀後半から20世紀までの西洋経済史の基本的な流れと基礎的な事項について説明する。個々の事項についての詳細な知識の暗記より、それぞれの事項がいかに関連しながら歴史上の因果関係を成しているかについて理解することが重視される。知識の定着を図るため、二回程度小テストを実施する。
学習（到達）目標	<ul style="list-style-type: none"><li>・近現代の西洋経済史の流れを把握し、基礎的な事項を理解すること。</li><li>・経済のあり方が歴史を通して構築されるものであることを理解すること。</li><li>・現在存在する経済システムの多くがヨーロッパに歴史的な起源を持つことを理解すること。</li></ul>

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	映画『ヴィクトリア女王』鑑賞－イギリス帝国の絶頂期
第3回	西洋経済史Ⅰの復習
第4回	19世紀におけるヨーロッパ経済の構造
第5回	運輸革命と欧米経済の変容
第6回	ヨーロッパにおける金融業の発達
第7回	労働運動と労働組合の誕生
第8回	映画『リトル・ダンサー』鑑賞－イギリスと労働組合
第9回	近代アメリカ経済の発展
第10回	世紀転換期の欧米経済と第一次世界大戦
第11回	1920年代の繁栄
第12回	世界大恐慌
第13回	第二次大戦後の経済復興とヨーロッパ統合の開始
第14回	20世紀の経済史と文化史
第15回	期末テストおよびまとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	90%
レポート	
その他	10%

<p>成績評価の方法（コメント）</p>	<p>試験は、ほぼ毎回、授業の最後に行う復習テストと、期末テストによって構成される。  復習テストと期末テストの比率は半々の予定である。  テストに際しては、各種プリント類などの参照可とする。  「その他」は、授業への積極的参加を指す。  テストに際しては、ノートパソコンでの受験が強く推奨される。</p>
<p>参考文献</p>	<p>奥西孝至、鳩澤歩、堀田隆司、山本千映著『西洋経済史』有斐閣、2010年。  須藤功、廣田功、山本通、馬場哲著『エレメンタル西洋経済史』晃洋書房、2012年。</p>
<p>事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）</p>	<p>・事前学習は特に必要とはしないが、歴史科目という特性上理解すべき事項が多岐にわたるために一回の授業が終了する都度、各自が復習し理解の上で次回の授業に臨むことが望まれる。  事前学習 0時間  事後学習 1時間</p>
<p>備考(管理者用)</p>	<p>(旧：西洋経済史) 02～10生読替</p>

講義コード	1530330000
講義名称	現代都市論 <秋>
科目英文名	Contemporary Urban Studies
代表ナンバリングコード	OSOC2450
単位数	2.0
時間割	秋学期: 金曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

## 担当教員

氏名
竹中 英紀

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	教科書『都市社会学・入門〔改訂版〕』の後半について講義を行う（前半は「都市社会学[2]」で扱う）。現代の都市は脱工業化や情報化・グローバル化の波にさらされ、都心も郊外も大きな構造変動を経験している。この授業では、都市社会学の立場から、世界と日本の都市を取り上げ、そこで生起している問題が、社会的にはどのようにとらえられるかを考えていきたい。講義は教科書の内容に沿って行い、適宜、小テストを実施して理解度を確認する。
学習（到達）目標	都市問題に対する社会的な分析力・表現力の獲得。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	現代都市論の問い
第2回	情報化・グローバル化と都市再編(1)工業化と都市／情報化と都市
第3回	情報化・グローバル化と都市再編(2)グローバル化と都市／変貌する東京
第4回	インナーシティの危機と再生(1)都市化の進展とインナーシティ／都市化の進行と労働力の移動
第5回	インナーシティの危機と再生(2)エスニック・コミュニティの形成／グローバル化のなかのインナーシティ
第6回	郊外のゆくえ(1)郊外の誕生と展開／米国における郊外の特質と変容
第7回	郊外のゆくえ(2)日本における郊外の動向
第8回	授業前半の補足・まとめ
第9回	都市の個性とまちづくり(1)都市の普遍性から都市の個性へ／伝統的消費都市・金沢の内発的発展／文化と景観
第10回	都市の個性とまちづくり(2)社会科学者の言説／都市政策と都市像の変遷／都市の個性と文化的構築
第11回	文化生産とまちづくり(1)文化生産とはなにか／ファッションの街「裏原宿」／住民の流出と「おかず横丁」の衰退
第12回	文化生産とまちづくり(2)ファッションの街・裏原宿への変容／新しいまちづくりへ／裏原宿を都市社会的に考える
第13回	アジアの都市再編と市民(1)ソウル—新しいエンターテインメント・マシン都市
第14回	アジアの都市再編と市民(2)上海の都市再開発と住宅の権利／ムンバイにおけるスラム再開発と異議申し立て
第15回	授業後半の補足・まとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	
その他	

## テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	松本康編	都市社会学・入門〔改訂版〕	大学オンライン販売	978-4-641-22207-6	有斐閣	都市社会学[2]と共通。

参考文献	サスキア・サッセン（2001=2018）『グローバル・シティ』筑摩書房 玉野和志編（2020）『都市社会学を学ぶ人のために』世界思想社 町村敬志編（2012）『都市の政治経済学』日本評論社
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）	授業計画を参照して、教科書の該当箇所を熟読すること。また授業ノートをこまめに整理し、自己の理解を確認すること。
備考(管理者用)	(旧：都市社会学) 02～20SS・17～20SW生読替

講義コード	16D3010000
講義名称	地域ビジネス入門 <秋>
科目英文名	Introduction to Community Business
代表ナンバリングコード	BUSA1380
単位数	2.0
時間割	秋学期: 金曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

## 担当教員

氏名
西藤 真一

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	<p>私たちの暮らしを支えるローカルなビジネスは数えると枚挙にいとまがありません。なかんずく、移動を支えるサービス・ビジネスは私たちの暮らしにおいて重要な役割を果たします。移動は何のために行うのか。当然のことながら目的地における用事を済ませるためです。ひとびとは合理的に行動したがるものですから、そうした移動サービスも合理的に提供される必要があります。本講義ではおもに移動に関連するビジネスとして、航空や鉄道、バス、旅行業、宿泊業などを取り上げ、それらの現状を把握するとともに、いまそれらの業界で課題となっている事柄について学びます。また、課題を整理するだけでなく、それに対してどのような政策によって、より望ましい在り方に誘導しようとしているのか学びます。それらを考えるときには、経営学、経済学、社会学的な観点も含みます。理論的な事柄も含め、やや学問横断的にとらえていきます。単なる事例紹介ではないことに注意してください。特に前半の講義回ではグラフは使った説明も行いますので、履修の際には注意してください。</p>
学習（到達）目標	<p>地域を支える移動やそれに関わるサービスが合理的に提供されるようにするためにはどうすべきか理解し、自身の考えを述べられるようにする。</p>

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロダクション：暮らしを支える様々なサービス
第2回	ビジネスの基本：需要と供給について理解する
第3回	消費者の考えるコスト
第4回	消費者にビジネスとしてサービスが提供される仕組み（市場を理解しよう）
第5回	なぜ「政策」が必要なのか？
第6回	政策が変わればどう変わるのか？航空の場合
第7回	地方創生にどう立ち向かうべきか？地域モビリティの場合
第8回	過去の「改革」では何を改革したのか？鉄道の場合
第9回	ビジネスとして成り立たせるためのアイデアとは？鉄道と百貨店・遊園地
第10回	人々のレクリエーションと観光をめぐる歴史
第11回	旅行産業に関わる現状整理
第12回	地方が交流人口を拡大させたい理由とその方策
第13回	人々の行動を喚起するためのマーケティング
第14回	コロナで変わったこと・変わらなかったこと
第15回	まとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
----	----

レポート	0%
その他	100%

成績評価の方法（コメント）	<p>講義のたびに課題を提示し、その出来栄で評価する。なお、提出期限には一定の余裕を設けるため、公欠であっても課題に取り組む必要がある（ただし、1週間以上にわたって大学が公欠を認める場合に限り別途対応を検討する）。課題を提出しない場合は、その回は0点として処理する。教室への出席自体をプラス評価することはない。</p> <p>授業は真面目に聞く態度のある学生を対象に行う。スマートフォンの操作、私語、居眠り、授業と関係のない事柄はすべて教室内の秩序を乱す迷惑行為であり、厳正に対処する。注意されるたびに10点以上の減点を行う。</p>
---------------	---

参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衛藤卓也, 大井尚司, 後藤孝夫 (編著) (2023) 『交通政策入門 (第3版)』 同文館出版。</li> <li>・竹内正人・竹内利恵・山田浩之 (2016) 『入門 観光学』 ミネルヴァ書房。</li> <li>・西藤真一 (2020) 『交通インフラの運営と地域政策』 成山堂書店。</li> </ul>
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	課題の出来栄で評価するため、授業前後の学習は必須とし、授業当日が公欠であっても、毎回課題に取り組む必要がある。
キーワード	サービス, 政策, 地域活性化, 航空, 鉄道, バス, モビリティ, 地域住民, 観光, 旅行

講義コード	17F6090000
講義名称	メディア文化特論-マルチメディア文化の理解 <秋>
科目英文名	Media and Culture-Multimedia Understanding
代表ナンバリングコード	FMED3430
単位数	2.0
時間割	秋学期: 金曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

## 担当教員

氏名
有國 明弘

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	20世紀末のデジタル技術の普及により、映像、画像、言葉、音楽など複数のメディア様式を融合するマルチメディアの発展は、私たちの生活や社会に大きな影響をもたらしてきた。それと同時に、私たちは日々の営みの中で、実践的にマルチメディア文化を生み出してもきた。本講義では歴史的な眼差しでメディアと人間・社会の相互作用を論じてきた「メディア論」の視座から、マルチメディア文化をめぐるさまざまな現象について考察していく。YouTubeやSNSなど個々のメディアの理解に留まらず、歴史的想像力を持って俯瞰的な目で、ダイナミックに変容していくマルチメディア文化について考えを深めていく。各講義の後には理解を掘り下げるための作業課題に取り組む。
学習（到達）目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) マルチメディアとは何か、またそれをメディア論的視座から学ぶ意義について自分の言葉でまとめられる。</li> <li>(2) マルチメディアの発展の歴史と社会へのインパクトを理解し、説明できる。</li> <li>(3) 文化コンテンツを批判的に検討し、自分の考えを述べられる。</li> <li>(4) マルチメディア文化についての自分なりの意見を持って、伝えられる。</li> </ul>

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	現代メディア発展史
第3回	メディアの発展は現代社会に何をもたらしたか
第4回	インターネット時代のメディア
第5回	マルチメディア発展史小レポート (1)
第6回	インターネットは世論をどう変えたか
第7回	なぜフェイクニュースが生まれるのか？
第8回	スマートフォンは写真をどう変えたか？
第9回	メディアが煽る身体加工-美容整形を例に
第10回	メディア社会の変容小レポート (2)
第11回	広告のジェンダー表現が炎上しやすいのはなぜ？
第12回	犯罪報道-女性被害者は本当に多いのか？
第13回	越境するポピュラー文化-K-POPを事例に
第14回	グーグルマップは本当に世界を描いているか？
第15回	まとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	24%
レポート	50%
その他	26%

成績評価の方法（コメント）	小レポート24%（小レポート2回・各12%）、期末レポート50%、毎回の授業課題26%で評価する。
---------------	---

## テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	石田佐恵子・岡井崇之編	基礎ゼミ メディアスタディーズ	大学オンライン販売	978-4790717416	世界思想社	2020年

参考文献	<p>実践マルチメディア編集委員会（2018）『実践マルチメディア論 改訂新版』画像情報教育振興協会</p> <p>水越伸（2014）『改訂版 21世紀メディア論』放送大学教育振興会</p> <p>浪田陽子・福間良明編（2021）『はじめてのメディア研究「基礎知識」から「テーマの見つけ方」まで 第2版』世界思想社</p>
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）	<p>事前学習として、各授業のテキストの該当箇所を読み、疑問点などまとめておくこと。事後学習として、作業課題に取り組み、授業の内容を自分の身の回りのマルチメディア環境と結び付け、学んだことを発展的に考えること。</p>

講義コード	1C30630000
講義名称	教養教育特別講義-現代中国経済と社会 <秋>
科目英文名	Special Topic in Liberal Arts-Contemporary China Studies : Economy and Society
代表ナンバリングコード	LBAT1000
単位数	2.0
時間割	秋学期: 金曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

## 担当教員

氏名
李 晨

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	本講義は、ライフステージに沿って現代中国の経済と社会を概観する。具体的には、義務教育、大学受験、就職市場、結婚・恋愛問題、育児市場、介護問題など多岐に渡る中国社会および経済のあり方を分析し、日本人が抱く中国に関する疑問に応えることを目指す。また、近年取り上げられる中国国内のニュース等も扱うことで、中国の現状について理解を深めてもらうことも目標としたい。
学習（到達）目標	中国の現状について理解を深めてもらうこと

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	第1部：現在中国経済と社会の歩み――1949年～1978年
第3回	第1部：現在中国経済と社会の歩み――1978年～
第4回	第2部：ライフステージに沿った現代中国の経済と社会を覗き義務教育制度（動画視聴）
第5回	受験戦争は幼稚園からはじまるって本当??
第6回	第5回：教育熱が過熱するのはなぜ?
第7回	進学か失業?――急速に進む高学歴化と「就職難」
第8回	若者の労働意識―996、内巻、寝そべり族、そして35歳定年
第9回	中国の若者も恋愛・結婚離れ?
第10回	結婚するために必要なもの―愛か金か?
第11回	不動産市場―中国人にとって「家」とは何か?
第12回	人口減に直面する中国――子女を持つ理想と現実
第13回	親の面倒はだれが見る?――中国の介護問題
第14回	葬儀にまつわる文化と経済
第15回	まとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	
その他	100%

成績評価の方法（コメント）	その他：レポート課題、出席 講義への参加意欲
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）	配布講義資料を事前に読んでおくこと。 理解できない部分について、授業終了後の質問時間に質問すること
備考(管理者用)	(旧：共通教養特別講義－現代中国経済と社会) 02～19生読替

講義コード	1E60020002
講義名称	健康・スポーツ科学講義-体力トレーニング論 02<秋>
科目英文名	Lecture for Health and Sports Science – Theory of physical fitness
代表ナンバリングコード	HSPT1000
単位数	2.0
時間割	秋学期: 金曜日 1 時限
講義開講時期	秋学期

## 担当教員

氏名
井口 祐貴

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	本講義では、体力の概念、トレーニング法の原理原則など、体力トレーニングの基礎的な理論や情報、考え方に関する知識や、人々の生涯にわたる健康づくりに寄与するであろう体力トレーニングの意義について学習します。講義は、パワーポイントを中心に授業を展開し、映像資料なども用いて、体力トレーニングに関する実践現場の視点からもアプローチしていきます。
学習（到達）目標	本講義では、健康・スポーツ科学に基づいた体力トレーニングに関する基礎的な理論について理解を深め、自己の体力向上・健康づくりを目的とした体力トレーニングの実践につながる教養を身につけることを目指します。 講義内では、「身体的な健康の基礎である身体の構造や機能の基礎知識を踏まえて、体力トレーニングの意義を説明できる」、「体力トレーニングという概念を幅広くとらえ、身体活動を切り口として、体力向上・健康増進の意義と社会における体力トレーニングの役割を説明できる」を具体的な到達目標とします。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス (授業計画の概略説明)
第2回	体力トレーニングについて考える
第3回	トレーニングの原理・原則
第4回	運動とエネルギー代謝
第5回	有酸素運動
第6回	レジスタンストレーニング
第7回	体力トレーニングの実践方法
第8回	運動と栄養
第9回	スポーツ競技者と体力トレーニング
第10回	障がい者と体力トレーニング
第11回	発育発達と体力トレーニング
第12回	高齢者と体力トレーニング
第13回	体力トレーニングと性差
第14回	生活習慣病とその予防
第15回	まとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	20%
レポート	30%
その他	50%

<b>成績評価の方法 (コメント)</b>	<p>(1) 試験 (20%) は、授業内においてLMSを用いて行います。</p> <p>(2) レポート (30%) は、到達目標に関連するテーマを設定した1000-1400字程度のレポート課題を2回課します。</p> <p>(3) 授業においては毎回、講義テーマに関連するテーマを設定した小課題および小テストを課します。毎回の授業において課される課題の内容は、担当教員から講義中、ならびにLMSを通じてその都度指示が出ます。</p> <p>(4) その他 (50%) は、毎回の授業において課す課題の提出および回答から、課題への取り組み、理解度等を総合的に評価します。</p> <p>(5) 課した全ての課題 (レポートも含む) のうち、3/4 (提出率 75%) 以上の提出がなければ、原則として単位認定対象外となります。</p>
<b>参考文献</b>	<p>「公認スポーツ指導者養成テキスト」公益財団法人 日本スポーツ協会</p> <p>「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト」公益財団法人 日本スポーツ協会</p> <p>「トレーニング指導者テキスト (理論編・実践編・実技編)」NPO法人 日本トレーニング指導者協会</p>
<b>事前および事後学習の指示 (事前学習 30 時間・事後学習 30 時間)</b>	<p>体力トレーニングや健康づくりに関する書物や映像で事前に学習し、理解に努めておいてください。また当科目は講義科目ですが、スポーツや身体活動の実践、体力の向上や健康の維持増進についての方法などにも興味を持って授業に臨んでください。これにより、講義を通して体力向上・健康づくりや健康問題への理解をより深めることができます。授業の予習・復習の他、授業で配布する資料等に目を通して受講してください。尚、授業において課す課題の提出期限については厳しく取り扱いますので、留意の上、受講するようにしてください。</p>
<b>キーワード</b>	<p>スポーツ健康科学、体力、トレーニング、健康づくり</p>
<b>備考(管理者用)</b>	<p>(旧：健康・スポーツ学講義 [2] - 体力トレーニング論) 02~19生読替</p>

講義コード	14D2320000
講義名称	経済情報処理論Ⅱ <秋>
科目英文名	Management of Economic Information Systems II
代表ナンバリングコード	ECON1520
単位数	2.0
時間割	秋学期: 金曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

## 担当教員

氏名
櫻井 雄大

授業形態	講義	実務経験のある教員による授業①
		Web開発業務の経験がある教員が、技術的な点も含めたIT活用について講義します。

講義・演習概要	<p>「経済情報処理論Ⅰ」と「経済情報処理論Ⅱ」は同一年度に履修することをお勧めします。ⅡではⅠで触れなかった内容を扱います。</p> <p>この講義では、主に経済学部生が今後の学習/研究活動に応用できるように、情報処理の技術や背景などについて説明します。経済学に限らず、今日では情報処理は私たちの生活に無くてはならないものとなっています。人々の様々な活動を記録し、大量のデータを素早く正確に処理し、そこから得られる知見を様々な分野で活用するにあたり、具体的な利用実例を示しながら説明するとともに、プログラミングの基本項目など技術的な項目も解説します。</p>
学習（到達）目標	<p>情報技術の基礎知識について学習し正しく理解することで、経済学およびその他社会科学の学習において情報技術を活用するための土台をつくり上げることを目標としています。</p>

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	復習—コンピュータの仕組み
第2回	論理演算の基本
第3回	学内の情報環境について
第4回	経済学におけるコンピュータの活用1(インターネット資源の調査と利用)
第5回	経済学におけるコンピュータの活用2(データの統計処理)
第6回	経済学におけるコンピュータの活用3(シミュレーション)
第7回	経済学におけるコンピュータの活用4(数値解析)
第8回	経済学におけるコンピュータの活用5(データマイニング)
第9回	経済学におけるコンピュータの活用6(複雑系)
第10回	プログラミング詳説1(プログラムが扱うデータの概念、型と構造)
第11回	プログラミング詳説2(流れの制御—条件分岐と反復処理)
第12回	プログラミング詳説3(処理の部品化—関数とライブラリ)
第13回	プログラミング詳説4(現実とプログラムのマップ—アルゴリズムの選択と設計)
第14回	プログラミング詳説5(制御と計測)
第15回	これまでの講義まとめ、最終試験

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
----	------

レポート	0%
その他	0%

成績評価の方法（コメント）	備考 不定期に実施する小テスト及び期末試験の成績により評価します。
---------------	--------------------------------------

参考文献	「入門コンピューター科学 ITを支える技術と理論の基礎知識」 J.Glenn Brookshear（著），神林 靖（翻訳），長尾 高弘（翻訳） 株式会社KADOKAWA,2017 ISBN-13:978-4048930543
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間・事後学習 30 時間）	準備学習が必要な項目については、講義中に適宜指示します。 また、必ずノートを取り、それを参考に講義中に話した項目について調べなおすことで復習してください。
キーワード	情報,コンピュータ,Web,プログラミング,データベース,アルゴリズム
備考(管理者用)	(旧：経済情報処理論) 02～10E・CBCC生読替

講義コード	14D4920000
講義名称	中小企業論Ⅱ <秋>
科目英文名	Small and Medium Enterprises II
代表ナンバリングコード	ECON2565
単位数	2.0
時間割	秋学期: 金曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

## 担当教員

氏名
義永 忠一

授業形態	講義 グループワーク	アクティブラーニング	プレゼンテーション
------	---------------	------------	-----------

講義・演習概要	金融危機以降、経済環境が激変しています。さらに2011年には大震災やその後の津波を起因とする事故など、大きな変化が起こっています。2020年には、新型コロナウイルス感染拡大により、「新状態」への模索が始まりました（既に大きな影響は見えづらくなっているかも知れません）。さらに2022年にはロシアによるウクライナ侵攻、2023年には中東パレスチナの混乱により、世界秩序・経済秩序が変化しつつあります。日本経済の主要な担い手である中小企業は、大きな変化を迫られています。中小企業論Ⅱでは、現状における中小企業に関する様々な問題、特にグローバル化について注目し、その変化に対する対応策について講義参加者と一緒に考えていきます。そして、一つの対応策として中小企業論が注目してきた「産業集積」に関する講義を展開します。
学習（到達）目標	講義内容を時事問題との関連で把握するために、講義開始15分を当日の新聞記事をピックアップしお伝えします。この新聞チェックにより、現実起こるグローバル化の変質の影響を的確に把握できるようになることを、第一の目標とします。次に、中小企業論が注目してきた「産業集積」の理解を深め、グローバル化の影響下の、中小企業が抱える課題を如何に解決するかについて、考え始める基礎を築くことを学習の目標とします。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	中小企業論とは何か～中小企業研究の課題～ 以下の講義計画において、教科書以外に、ビデオ、独自資料を使った講義も行います。また、小テスト実施の関係から、講義計画の進捗が変更される場合があります。 小テストに関する説明～新聞チェック：あなた自身の分析軸を作る～
第2回	中小企業をめぐる環境の変化－グローバル化（1－1）1980年代の映像
第3回	中小企業をめぐる環境の変化－グローバル化（1－2）1980年代の理解
第4回	中小企業をめぐる環境の変化－グローバル化（2）2000年以降の変化
第5回	環境変化をいかに捉えるのか グループディスカッション
第6回	これまでの課題に対するフィードバック【第1回目】
第7回	産業集積における理論的背景（1）
第8回	産業集積における理論的背景（2）
第9回	技能と技術と承継の課題－産業集積の視点－
第10回	産業集積に関する事例（1） 東京都大田区・墨田区
第11回	産業集積に関する事例（2） 東大阪
第12回	これまでの課題に対するフィードバック【第2回目】
第13回	産業集積における新たな事例
第14回	産業集積の役割の変化と可能性 :これまでの課題に対するフィードバック【第3回目】

第15回	試験およびまとめ
------	----------

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	90%
レポート	
その他	10%

成績評価の方法（コメント）	<p>毎講義開始15分間、当日の日本経済新聞のチェックを行います。当日の日本経済新聞朝刊を購入して講義に臨んでください。不定期に、この新聞チェックに関する小テストを実施します。小テスト実施の関係から、上記の授業計画の進捗が変更される場合があります。また中小企業論IIでは、新聞チェックを、受講者によるグループディスカッションにて実施し、発表することも行います。</p>
	<p>試験【90%】につまましては、次の2種類に区分します。          論述試験を第15回の講義時に課します（50%）。          新聞チェックに関する小テスト（40%）。</p> <p>その他【10%】 WebClassテストによる課題          WebClassによる課題は、毎回の授業に関する「課題」です。その他の提出物も含まれます。</p>
	<p>試験【40%】 新聞チェックに関する小テスト（40%）及び、その他【10%】の取り扱いについては、第1回講義内で詳細をお伝えします。</p>

## テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	植田浩史編著	中小企業・ベンチャー企業論 新版 グローバルと地域のはざままで	大学オンライン販売	4-641-16431-4	有斐閣	

参考文献	その都度指示します。
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間・事後学習 30 時間）	毎講義開始15分間、当日の日本経済新聞のチェックを行います。当日の日本経済新聞朝刊を購入して講義に臨んでください。詳細は、成績評価の欄を参照してください
備考(管理者用)	(旧：中小企業論) 02～10生読替 (E・CBCC・B生のみ)

講義コード	17E0530000
講義名称	英語の文法B <秋>
科目英文名	English Grammar B
代表ナンバリングコード	LING3410
単位数	2.0
時間割	秋学期: 金曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

## 担当教員

氏名
森下 裕三

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	この授業では、必要に応じて日本語などの言語と比較しながら、英語の文法とはどのようなものなのかを概観します。そのため、実際に使われている数々の具体例を授業で取り上げます。英語学の専門用語の暗記は目的としていませんが、しっかりと問題意識を持ちながら考え、授業のなかでも受講生にはさまざまな形で授業へ参加することが求められます。英語という言葉に隠された謎を解き明かす魅力を体験してもらうことが目的です。基礎的な英文法の復習などは目的としていません。なお、「英語の文法A」との違いは、扱うテーマや視点の違いであって難易度の違いではありません。
学習（到達）目標	この授業では、英文法の分析方法が理解でき、実際に自分の力で英語の分析ができるようになることを目標とします。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション：英語学の目的
第2回	規則変化動詞と不規則変化動詞
第3回	文法と頻度
第4回	文法・語法の実態
第5回	小テスト (1) と解説
第6回	ことばの変化と文法化
第7回	さまざまな英語
第8回	文法と使用域
第9回	動詞の島構文
第10回	小テスト (2) と解説
第11回	名詞句と情報構造
第12回	名詞句の分布にみられる偏り
第13回	響鳴する文法
第14回	会話の規則
第15回	小テスト (2) と解説

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	30%
レポート	20%
その他	50%

成績評価の方法（コメント）	毎回の授業中に提出してもらったレポートやその他の課題、理解度を確認するための授業課題、そして3回実施する小テストによって成績評価されます。
参考文献	野村益寛 (2014) 『ファンダメンタル認知言語学』, ひつじ書房, 東京. 石川慎一郎 (2021) 『ベーシックコーパス言語学』, ひつじ書房, 東京 崎田智子・岡本雅史 (2010) 『言語運用のダイナミズム』, 研究社, 東京.
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）	授業課題は、授業の内容と課題についてよく理解した上で取り組む必要があります。授業内容は録画し、授業翌日までに M-Port より視聴可能な URL を掲出しますので。十分に復習した上で課題に取り組んでください。
備考(管理者用)	(旧：英語の文法) 08～17L生読替☆ (旧：統語論) 02～07L生読替

講義コード	17F6100000
講義名称	メディア文化特論-マルチメディア文化の実践 <秋>
科目英文名	Media and Culture-Multimedia Social Practice
代表ナンバリングコード	FMED3430
単位数	2.0
時間割	秋学期: 金曜日 2時限
講義開講時期	秋学期

## 担当教員

氏名
有國 明弘

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	スマートフォンの持ち歩きが常態化する中で複数のメディア様式を融合したマルチメディアはより身近になり、多くの新しいメディア文化を生み出してきた。日常の中で無意識に生み出されるものもあれば、地域経済の活性化や音楽イベントの開催など明確な意図を持った取り組みとして試みられてきたものもある。本授業では、そうした意図的な試みを「創造的な文化実践」と位置付け、講義していく。創造的なマルチメディア文化実践は、国や地域行政が戦略的に取り組んだり、アーティストがプロモーションとして手がけたり、市民が公共の福祉のために行ったり多様に展開されてきた。また、社会で展開される文化実践の知識を持つだけでなく、受講者自身のメディアリテラシーを高めることを目的とする。
学習（到達）目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 創造的な文化実践とは何か、理解を深め、自分の言葉で説明できる。</li> <li>(2) 社会で取り組まれているマルチメディア文化実践について検証し、評価できる。</li> <li>(3) マルチメディアの創造的な活用について、独自のアイデアが出せる。</li> </ul>

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	映画-構造分析で物語の背後にあるものを読み解く
第3回	私たちはテレビドラマをどのように受け取っているか-オーディエンス論
第4回	ポピュラーミュージック①（ロックミュージックと象徴闘争）
第5回	ポピュラーミュージック②（ヒップホップの「経路」）
第6回	「モノ消費」から「コト消費」へ-DJの「現場」実践
第7回	ソフト・パワー論としてのアニメ
第8回	文化産業論でマンガを読み解く
第9回	アニメ・マンガと社会
第10回	グローバルの中の個としてのストリートファッション
第11回	部活動の中のストリートダンス実践
第12回	「クールジャパン」とオリエンタリズム
第13回	フレーミングを操作する「お笑い」・「お笑い」の本質とは何か
第14回	ソーシャルゲームの「ソーシャル」とは？
第15回	まとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	70%
その他	30%

成績評価の方法（コメント）	毎回の授業課題を30%、期末レポートを70%で成績評価する。
参考文献	<p>田中東子編著（2021）『ガールズ・メディア・スタディーズ』北樹出版</p> <p>石田佐恵子・岡井崇之編（2020）『基礎ゼミ メディアスタディーズ』世界思想社</p> <p>飯田豊・立石祥子編（2017）『現代メディア・イベント論』勁草書房</p> <p>遠藤英樹・堀野正人・寺岡伸悟編（2014）『観光メディア論』ナカニシヤ出版</p> <p>遠藤英樹（2011）『現代文化論』ミネルヴァ書房</p>
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）	事前学習として該当するテキストを読んで疑問点などまとめておくこと。事後学習として作業課題に取り組み、自身の日常的なメディア実践と結び付け考えを掘り下げること。

講義コード	17F7030000
講義名称	映像メディア論B <秋>
科目英文名	Visual Media B
代表ナンバリングコード	FMED2420
単位数	2.0
時間割	秋学期: 金曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

## 担当教員

氏名
森田 良成

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

講義・演習概要	<p>今日においてはこれまでの時代になかった規模と速度、また表現方法によって、様々な映像作品が撮影・制作され、鑑賞され、消費されている。このような状況において、「他者」や「異文化」をいかに表象するのかという問題は、集団的なものから個人的なもの、政治的な関心から娯楽に関するものまで、様々な文脈において改めて重要になっている。</p> <p>この講義では多様な目的と背景のもとで制作された、私たちにとっての「異文化」が描かれた映像作品を取り上げる。映像メディア論Bでは、特にドキュメンタリー作品を取り上げて、映像メディアの問題と可能性を学ぶ。</p>
学習（到達）目標	<p>映像メディアを多角的に検討し、その特性を学ぶ。</p> <p>映像メディアが「異文化」をどのように描きうるのかについて理解を深める。</p>

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	映像と新しいテクノロジー(1)
第3回	映像と新しいテクノロジー(2)
第4回	映像と新しいテクノロジー(3)
第5回	家族・友人を撮る(1)
第6回	家族・友人を撮る(2)
第7回	家族・友人を撮る(3)
第8回	民族誌映画から見る異文化の風景(1)
第9回	民族誌映画から見る異文化の風景(2)
第10回	民族誌映画から見る異文化の風景(3)
第11回	異文化を映像はどのように描くのか(1)
第12回	異文化を映像はどのように描くのか(2)
第13回	異文化を映像はどのように描くのか(3)
第14回	異文化を映像はどのように描くのか(4)
第15回	まとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	60%
その他	40%

<p><b>成績評価の方法 (コメント)</b></p>	<p>試験：0%、レポート：60%、その他：40%</p> <p>[その他40%] 平常点を評価するために、到達目標に対応する小レポートを複数回実施する。論述の内容、すなわち「授業内容を理解したうえで自分の考えを論理的に記述できているかどうか」を評価する（提出回数だけでは評価せず、記述内容に応じて採点をする）。 *受講者にシンプルな映像（1分間のワンカット）を撮影して提出してもらい、それをもとに議論することを予定している（受講者数による）。</p> <p>[レポート60%] 1000字程度を予定。評価基準について、授業内で詳しく説明する。</p>
----------------------------------	--

<p><b>参考文献</b></p>	<p>村尾静二、久保正敏、箭内匡・編（2014） 『映像人類学(シネ・アンソロポロジー)—人類学の新たな実践へ』せりか書房 南出和余、木島由晶・編（2018） 『メディアの内と外を読み解く—大学におけるメディア教育実践』せりか書房 ほか、授業において指示する。</p>
<p><b>事前および事後学習の指示 (事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間)</b></p>	<p>講義中に紹介する文献資料を読み、資料映像を視聴すること。 課題に積極的に取り組むこと。</p>
<p><b>備考(管理者用)</b></p>	<p>(旧：映像メディア論) 10～17SS・08～17L生読替☆(旧：社会学特講－映像メディア論) 02～09SS生読替 ☆(旧：比較文化研究－映像メディア) 02～07L生読替</p>

講義コード	17N5330000
講義名称	日本語教育事情 <秋>
科目英文名	Japanese Language Education in Globalizing World
代表ナンバリングコード	LAED1410
単位数	2.0
時間割	秋学期: 金曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

## 担当教員

氏名
島 千尋

授業形態	講義	実務経験のある教員による授業① 日本語学校・専門学校・他大学での日本語教師経験のある現役日本語教師が経験の中で得た具体的な実例を交えつつ日本語教育を多方面から解説する
------	----	--

講義・演習概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本にいる外国人や日本語を学んでいる学習者について</li> <li>2. 学習者から見た日本語について</li> <li>3. 日本語の教え方について</li> <li>4. 日本語を教える「日本語教師」という仕事について</li> <li>5. 日本在住の外国人や学習者を取り巻く環境について</li> </ol> <p>以上の点に関する基礎的な知識を学びます。</p>
学習（到達）目標	日本語教育に関わる様々な事柄についての基礎的な知識を身につけることで、日本語教育というものの全体像を把握する。また、これからの日本社会や世界の中で自分たちと共存していくこととなる外国人との接点を見出す。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	・オリエンテーション ・初めの一歩 ～日本語教育の世界をのぞいてみよう～
第2回	1. 日本にいる外国人や日本語を学んでいる学習者について（1）～外国と日本との相違点～ （文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち（1）世界と日本の社会と文化 （7）世界と日本の日本語教育事情 を含む）
第3回	1. 日本にいる外国人や日本語を学んでいる学習者について（2）～外国と日本との共通点・多文化共生～ （文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち（3）多文化共生 （13）多言語・多文化主義 （32）異文化間教育 を含む）
第4回	2. 学習者から見た日本語について（1）～文字～ （文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち（41）日本語教育のための文字・表記 を含む）
第5回	2. 学習者から見た日本語について（2）～発音・語彙～ （文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち（40）日本語教育のための音韻・音声体系 （42）日本語教育のための形態・語彙体系（44）日本語教育のための意味体系 を含む）
第6回	2. 学習者から見た日本語について（3）～文法～ （文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち（43）日本語教育のための文法体系 を含む）
第7回	2. 学習者から見た日本語について（4）～使い方～ （文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち（10）コミュニケーションストラテジー （11）待遇・敬意表現 （45）日本語教育のための語用論的規範 を含む）
第8回	3. 日本語の教え方について（1）～初級文法の教え方 ―「初級」とは―～ （文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち（6）日本語の試験 を含む）
第9回	3. 日本語の教え方について（2）～初級文法の教え方 ―教え方の実際―～
第10回	3. 日本語の教え方について（3）～日本語を教える際の留意点～
第11回	3. 日本語の教え方について（4）～「やさしい日本語」～ （文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち（33）異文化コミュニケーション を含む）
第12回	4. 日本語を教える「日本語教師」という仕事について（1）～日本語教師になるには～ （文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち（5）言語政策 を含む）

第13回	4. 日本語を教える「日本語教師」という仕事について（2） ～日本語教師の仕事とやりがい～ （文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち（20）日本語教師の資質・能力 を含む）
第14回	5. 日本在住の外国人や学習者を取り巻く環境について（1） ～定住者・外国人児童～ （文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち（2）日本の在留外国人施策 を含む）
第15回	5. 日本在住の外国人や学習者を取り巻く環境について（2） ～日本で働く外国人の現状・在住外国人への接し方～ （文化庁「日本語教師養成における必須の教育内容50項目」のうち（18）異文化受容・適応 を含む）

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	85%
その他	15%

成績評価の方法（コメント）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席は取りませんが、その日の授業内容に基づいて、ほぼ毎回小テストを出します。授業資料をM-Portに上げるのは小テストの提出期限後ですので、授業を聞いていないと小テストができません。授業には毎回必ず出席してください。もちろん、ただ出席しているだけで出席点が加味されるということはありません。</li> <li>・周りの人とおしゃべりをする、断りなく途中退室することは厳禁とします。どうしても退室しなければならない場合は、講義中でも構いませんので教員に許可を取ってください。</li> <li>・「レポート」は、①学期中に時々課す課題（全3回）（30%） ②学期途中で行う留学生／日本人学生へのインタビューの結果報告（15%） ③学期末に課す最終課題（40%） の3つです。</li> <li>・「その他」はほぼ毎回課す小テスト（15%）です。</li> <li>・授業中に質問への解答のためにスマートフォンを使用してもらう場合があります。</li> </ul> <p>★日本語や日本語教育に興味・関心がある人、将来のために外国人との関わり方について知りたい人はどうぞ受講してください。</p>
---------------	--

事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の録画や使用したパワーポイントをM-Portに上げますので、それを見て復習してください。</li> <li>・学内の留学生と積極的に関わり、話をして、視野を広げてください。</li> <li>・外国人学習者向けの様々な日本語教科書が図書館にあるので、見てください。</li> <li>・授業に関連のあるテーマについて、ニュースを見たりインターネットの記事や書籍を読んだりして、関心を持つようにしてください。</li> </ul>
キーワード	日本語、外国人、日本語学習者、日本語教育、日本語教師、登録日本語教員（国家資格）
備考(管理者用)	(旧：学科特殊講義－日本語教育事情) 02～18L生読替☆ (旧：共通自由特別講義－日本語教育事情) E・CBCC・SS・SW・J04～18生読替

### 【社会人の方へ】

授業中にスマートフォンでQRコードを読み込み、Googleフォームに答えを記入してもらうことが何度かありますので、桃山のアカウントにログインできるようにしておいていただくと助かります。もちろん上記を行わずに受講することも全く問題ありません。

講義コード	1580330000
講義名称	メディア史 <秋> ※遠隔授業（同時双方向型）
科目英文名	Media History
代表ナンバリングコード	COMM2400
単位数	2.0
時間割	秋学期: 金曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

## 担当教員

氏名
長崎 励朗

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

講義・演習概要	現在、「メディア」と言えばインターネットやテレビが想起されることが多い。しかし、そもそもmediaという単語が「中間」や「媒介」を意味する「medium」の複数形であることから分かるように、情報伝達のために用いられるものは本来、すべてメディアでありうる。本講義では、こうした認識に基づいて様々なメディアの歴史を学ぶとともに、それが社会にどのような影響を与えたか、あるいは逆にどのような社会がそうした技術を求めたのかを考察する。
学習（到達）目標	メディアについて思考するための基本的な理論枠組みを学んでもらう。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	メディアとは何か？－広報・広告・プロパガンダ、そして教育
第3回	メディア論の系譜
第4回	書籍というメディア－焚書が持つ意味
第5回	新聞というメディア－新聞は「権力の番犬」か？
第6回	写真と観光のメディア史け
第7回	サイレント映画の誕生－無声映画のシンボル利用
第8回	トーキーと総力戦体制
第9回	日本のラジオ史－「National」ラジオが誕生するとき
第10回	各国のラジオ史
第11回	テレビは教育的か？
第12回	インターネットの誕生－宇宙開発と核開発
第13回	インターネットは民主主義の敵か？
第14回	メディアと宣伝
第15回	テストおよびまとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	90%
レポート	
その他	10%

## テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	佐藤卓己	現代メディア史 新版		9784000289207	岩波書店	

参考文献	佐藤卓己『現代メディア史』岩波書店 その他、授業中に適宜提示するものを自主的に読み込むこと。
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）	試験前にはノートを見直すことをおすすめします。 また、日常的には、授業の内容を踏まえて自身の周囲にあるものを観察してみることに。
備考(管理者用)	(旧：コミュニケーション論) 02～18生読替☆遠隔授業（同時双方向型）

講義コード	16D0860000
講義名称	社会ビジネスの理論と実践II <秋>
科目英文名	Theory and Practice of Social Business II
代表ナンバリングコード	BUSA2500
単位数	2.0
時間割	秋学期: 金曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

## 担当教員

氏名
西藤 真一

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	春学期に実施した「社会ビジネスの理論と実践I <春>」に引き続き講義を展開します。秋学期のこの講義では、住民参画による協働・共創による社会課題の解決をキーワードとし、さまざまな地域振興のアプローチについて学びます。 ※講義計画は変更する場合があります
学習（到達）目標	社会課題の存在に取り組む主体とその役割について理解できる

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロダクション：社会ビジネスで取り扱う範囲
第2回	ソーシャルエンタープライズ
第3回	ソーシャル・イノベーション
第4回	企業の社会的責任とは
第5回	企業同士の協力・連携の必要性
第6回	フィランソロピーとは何か
第7回	フィランソロピーの意義
第8回	中間まとめ（課題の提示）
第9回	地域コミュニティをどう維持するか
第10回	地域経済と雇用・働き方の変化
第11回	ソーシャル・キャピタルを活用した地域づくり
第12回	SDGsにどう取り組むか：経緯と課題
第13回	不採算な交通をどう維持するか
第14回	地域交通の維持に向けた取り組み
第15回	総まとめ（課題の提示）

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	0%
その他	100%

講義のたびに課題を提示し、その出来栄で評価する。なお、提出期限には一定の余裕を設けるため、公欠であっても課題に取り組む必要がある（ただ

<b>成績評価の方法（コメント）</b>	<p>し、1週間以上大学が公欠を認める場合に限って別途対等を検討する）。課題を提出しない場合は、その回は0点として処理する。教室への出席自体をプラス評価することはない。</p> <p>授業は真面目に聞く態度のある学生を対象に行う。スマートフォンの操作、私語、居眠り、授業と関係のない事柄はすべて教室内の秩序を乱す迷惑行為であり、厳正に対処する。注意されるたびに10点以上の減点を行う。</p>
----------------------	--

<b>参考文献</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・谷本寛治（2020）『企業と社会-サステナビリティ時代の経営学』中央経済社。</li> <li>・切通堅太郎・西藤真一・野村実・野村宗訓（2021）『モビリティと地方創生-次世代の交通ネットワーク形成に向けて』晃洋書房。</li> <li>・谷本圭志・細井由彦（編著）『過疎地域の戦略-新たな地域社会づくりの仕組みと技術』学芸出版社。</li> </ul>
<b>事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）</b>	授業中に実施する確認問題のための復習を毎回行うこと。
<b>キーワード</b>	SDGs, ソーシャルビジネス, フィランソロビー, NPO, まちづくり, 連携, 地域振興
<b>備考(管理者用)</b>	(旧：情報化組織論) 02～07B生読替☆ (旧：情報組織論B) 08～12生読替☆ (旧：社会ビジネスB) 13～20B生読替

講義コード	17N3270000
講義名称	比較文化研究-インドネシアと日本の音楽文化B <秋>
科目英本文	Study of Comparative Cultures-The Music Cultures of Indonesia and Japan B
代表ナンバリングコード	CULT2460
単位数	2.0
時間割	秋学期: 金曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

## 担当教員

氏名
由比 邦子

授業形態	講義	実務経験のある教員による授業①
		楽器博物館で民族楽器の調査・研究に携わった経験を持つ教員が、インドネシアと日本の楽器について解説する。

講義・演習概要	インドネシアと日本は地域も民族も文化も異なるが、東南アジアもしくは東アジアの域内における位置関係、さらにインドもしくは中国という古代の大国の影響を色濃く受けているという点で共通性がある。そして、両国の音楽文化には明らかな類似性、またその反面、似て非なる相違点が見られる。本講義では、音楽と演劇の関わりに焦点を当てて、人形劇を特にキーワードとして両国の古典的上演芸術の諸相を対比させて論じる。
学習（到達）目標	音楽は単に演奏されて鑑賞されるだけではない。音楽が演劇や舞踊と結びついた上演芸術について理解し、上演芸術における音楽の役割を説明できるようにする。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	音楽と演劇の関わりから見たインドネシアと日本の文化的背景
第2回	上演芸術という考え方
第3回	上演芸術を育む環境
第4回	インドネシアの上演芸術を支える音楽
第5回	日本の上演芸術を支える音楽
第6回	インドネシアの人形劇（ワヤン・クリッ）
第7回	日本の人形劇（人形浄瑠璃）
第8回	ストーリーの語られ方
第9回	操りと語りの関係
第10回	インドネシアの仮面劇と舞踊劇
第11回	日本の仮面劇と舞踊劇
第12回	演者としての人形と人間の関係
第13回	部外者の目がもたらす上演芸術の変容
第14回	インドネシアと日本の“伝統的”上演芸術
第15回	試験およびまとめ

成績評価の方法（コメント）	第15回に実施する試験70%、不定期に計5回実施するミニテスト30%
---------------	------------------------------------

参考文献	皆川厚一編『インドネシア芸能への招待 音楽・舞踊・演劇の世界』（東京堂出版） 福岡まどか『インドネシア上演芸術の世界 伝統芸術からポピュラーカルチャーまで』（大阪大学出版会）
------	--

	今岡謙太郎『日本古典芸能史』（武蔵野美術大学出版局）
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）	前回の授業内容の確認を事前学習とし、授業ノートの整理および授業内容に関連する映像チェック（YouTubeなど）を事後学習とする。
キーワード	上演芸術 人形劇 仮面劇 舞踊劇
備考(管理者用)	(旧：比較文化研究－インドネシアと日本の音楽文化) 02～10E・06～10CBCC・02～17L生読替

講義コード	14D1020000
講義名称	産業構造論Ⅱ <秋>
科目英文名	Japanese Industries Ⅱ
代表ナンバリングコード	ECON2605
単位数	2.0
時間割	秋学期: 金曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

## 担当教員

氏名
義永 忠一

授業形態	講義	アクティブラーニング	実務経験のある教員による授業①
			インテグレーション科目

講義・演習概要	現代日本の産業を各期のテーマに沿って、各産業分野の「現場」で活躍されている経営者やそれに近い方々、もしくは「現場」に関して造詣の深い方々から講義をしていただきます。産業構造論Ⅱは、「現在の日本における産業構造の変化」というテーマで、各産業の視点より講義をしていただきます。また産業構造論Ⅱでは、講師への積極的な質問を推奨しています。
学習（到達）目標	講義を通して見えてくる各産業の現状と課題を理解し、受講生が解決の方向性を考え始めるきっかけとなることを、学習の目標とします。講義終了後の積極的な質疑応答を通して、発言する力の養成も学習目標とします。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	この講義のねらい ・2025年度講義内容紹介（ゲスト講師のご都合により変更の可能性があります） ・テーマ：現在の日本における産業構造の変化（サブテーマを設定する場合があります）
第2回	産業構造とは-現在の日本における産業構造の変化- 課題の設定
第3回	エネルギーの新たな流れ（ガス）
第4回	日本における貿易の現状
第5回	知的財産権-中小企業の挑戦-
第6回	武器製造と日本の産業構造
第7回	情報化の現状について
第8回	外食産業の現状と課題-地域視点からの活動報告-
第9回	タオル製造業経営から見た地場産業の現状
第10回	自動車産業の現状
第11回	観光業におけるホテルの役割
第12回	シンクタンクビジネスから見た日本の課題
第13回	環境に対する視点
第14回	産業構造の変化と成長戦略
第15回	まとめと課題の再確認

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
----	--

レポート	57%
その他	43%

<b>成績評価の方法（コメント）</b>	<p>第1回目に、講義に関する説明をします。講義参加者は、必ず出席すること。 第15回目は、まとめとして全講義を通しての理解を問います。</p> <p>レポート【57%：1本（19点）※3本】 講義期間を3期に分け、各期1～3つの中から、各講師が出題したテーマについてレポートを1本作成してもらいます。 受講後の提出物がなければ【後述】、レポートを提出することができませんので注意してください。 評価基準等については、講義第1回目に説明します。</p> <p>【受講後の提出物】 講義後に、出席確認とは別に「参加」した方がわかる方法の「課題」をWebClassテストから課します。 この「課題」の提出が認められた方の「レポート」を受け付けます。</p> <p>「レポート」は各期ごとに必ず提出することを課しています。各期ごとの締め切りに注意して下さい。各期の締め切りに遅れた場合は、レポート提出不足とする「不受験」扱いとなります。</p> <p>その他【43%】 第2回に課す課題と、第15回に行う、まとめとして全講義を通しての理解を問う課題を合わせた評価となります。 評価基準等については、講義第1回目に説明します。</p> <p>【レポート提出だけでは、単位修得条件である60%に届かないことにご注意ください。】</p>
----------------------	--

<b>参考文献</b>	その都度指示します。
<b>事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）</b>	毎回講義に臨む際、あらかじめ当該産業分野についてWebや新聞などにより情報を調べておくことが望ましい。また講義における質疑応答の際は、どんな内容でも構わないので、積極的に質問をすることを期待します。その後、各自で調査・研究することを望みます。
<b>備考(管理者用)</b>	(旧：産業構造論) 02～07E・CBCC生読替☆インテグレーション科目

講義コード	1536850000
講義名称	社会学特講-エンハンスメントの社会学 <秋>
科目英文名	Topics in Social Studies-Sociology of Enhancement
代表ナンバリングコード	OSOC1430
単位数	2.0
時間割	秋学期: 金曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

## 担当教員

氏名
平野 孝典

授業形態	講義	アクティブラーニング	グループワーク
------	----	------------	---------

講義・演習概要	<p>皆さんは、飲めば必ず頭が良くなるクスリ（副作用なし!）があれば、それを飲みたいと思いますか？この例のように、私たちの心身に何らかの介入を施し、能力を増強することを「エンハンスメント」といいます。頭がよくなるクスリは極端な例ですが、美容整形も外科手術によって外見の魅力を増強する一種のエンハンスメントといえます。こう考えると、エンハンスメントは意外と身近な問題かもしれません。この講義では、現代社会におけるエンハンスメントの現状を解説し、その倫理的な問題について皆さんと考えていきたいと思ひます。</p> <p>なお、この授業では対面でのグループワークや意見の発表を行いますので、座席を指定する場合があります。</p>
学習（到達）目標	<ol style="list-style-type: none"><li>1 現代社会におけるエンハンスメントの現状を理解し、説明できるようになる。</li><li>2 様々なエンハンスメントの倫理的問題を理解し、説明できるようになる。</li><li>3 様々なエンハンスメントについて、「その人が幸せならいいのではないか」とは別の視点から議論できるようになる。</li></ol>

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	授業概要の説明
第2回	スマートドラッグ①：クスリで頭を良くしたいですか？
第3回	スマートドラッグ②：スマートドラッグ使用の現状
第4回	感情制御①：クスリで性格を良くしたいですか？
第5回	感情制御②：感情制御の現状
第6回	遺伝子操作①：遺伝子操作で賢い子どもを作りたいですか？
第7回	遺伝子操作②：遺伝子操作の現状
第8回	中間まとめ
第9回	美容整形①：整形でキレイになりたいですか？
第10回	美容整形②：美容整形の現状
第11回	ドーピング①：クスリでメダルを取りたいですか？
第12回	ドーピング②：ドーピングの現状
第13回	サイボーグ化①：不死身の体が欲しいですか？
第14回	サイボーグ化②：サイボーグ化の現状
第15回	総まとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	70%
その他	30%

<p>成績評価の方法（コメント）</p>	<p>レポート：学期中に2回のミニレポートを課します。          その他：毎回の授業後に提出を求めるコメントカードと、複数回実施する小テストから評価します。          受講態度が著しく悪い場合は、単位を認定しません。</p>
<p>参考文献</p>	<p>佐藤岳詩，2021，『心とからだの倫理学——エンハンスメントから考える』ちくまプリマー新書，このほかは授業時に紹介します。</p>
<p>事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）</p>	<p>エンハンスメントに関する様々なニュースに目を通してください。また、この授業は参考文献に依拠しながら進めますので、授業内容に関心を持った方はぜひ手に取ってみてください。</p>

講義コード	15D5510000
講義名称	国際社会特講-グローバル化がつくる社会問題 <秋>
科目英文名	Topics in Globalization-Emerging Social Issues in Globalization
代表ナンバリングコード	0SOC2540
単位数	2.0
時間割	秋学期: 金曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

## 担当教員

氏名
篠原 千佳

授業形態	講義
------	----

講義・演習概要	この講義では、グローバル社会で問題化するいくつかの事象を取り上げ、国際社会学の視点で考察する。国内のみならず海外の現状や、多様な視点も学びつつ社会問題化する課題を検証する。国際移民、ライフコース社会学、国際社会における宗教、働き方とジェンダー、多様な日本人などを予定している。
学習（到達）目標	グローバル化社会における現象や社会問題を学び、文化のみならず法・制度の変化とその影響も含めて、社会的に理解し分析する能力を発展させることができる。グローバル社会と共に起こっている社会の変化を理解し、多角的な視点で考察できるようになる。社会学的文献とデータなどの根拠を示しながら、グループで異なる意見を共有するだけでなく、アカデミックな批判的思考をもとに文章を組み立て論述し、分析レポートとしてまとめることができる。

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	講義紹介ー国際社会学とは
第2回	国際移民の歴史と社会変化
第3回	グローバル化社会における出会い
第4回	グローバル化社会における文化変容
第5回	ライフコース1ー学校から職業への移行
第6回	ライフコース2ー性別役割と格差、家族と制度
第7回	ジェンダー1ーグローバルな規範と制度
第8回	ジェンダ2ーー仕事とセクシュアリティ
第9回	グローバル化とジェンダーを宗教の視点から
第10回	国際社会と宗教ー世界と日本の宗教
第11回	国際社会と宗教ー伝統・宗教的価値観とサステナビリティ
第12回	多様な日本人1ーマイノリティと権利
第13回	多様な日本人2ー在日外国人とヘイトスピーチ
第14回	多様な日本人3ー在外日本人・日系人
第15回	学期のまとめ

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	40%
レポート	30%
その他	30%

成績評価の方法  
(コメント)

社会学の基礎知識がすでに身につけていることを前提に、1) 授業への参加・貢献(30%)に加えて、講義と文献の内容理解を2) 中間レポート(30%)と3) 期末試験レポート(40%)で確認し、総合的に評価する。毎回講義時間内外の課題に取り組み、積極的に授業参加・貢献することに加えて、協調性を持って他の受講生ともコミュニケーションをとることにより、国際社会に対する理解を深める事が求められる。

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	樽本英樹	国際社会学・超入門ー移民問題から考える社会学	大学オンライン販売	ISBN-13: 978-4641200074	有斐閣	
2.	長谷川公一(編)	社会運動の現在	大学オンライン販売	ISBN-13: 978-4641174535	有斐閣	

参考文献	友枝 敏雄・山田真茂留・有田伸・筒井淳也(編), 2023, 『災禍の時代の社会学ーコロナ・パンデミックと民主主義』東京大学出版会.
事前および事後学習の指示 (事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間)	事前学習として、指示された文献を熟読し、課題の問いに答えられるようにノートに準備しておくこと。事後学習として、レポート等執筆の課題に取り組むこと。授業内外での提出課題は個人、ペア、グループ・ワークなど多様であり、自立心と積極性に加えて協調性が求められる。
キーワード	国際社会学、グローバル化、ライフコース、制度、ジェンダー、移民
備考(管理者用)	(旧: 社会学特講ーグローバル化がつくる社会問題) 02~09SS生読替

講義コード	1787990000
講義名称	ヨーロッパ文化研究-フランスの言語文化と芸術B <秋>
科目英文名	European Cultures-French Cultural Scene Literature and Art B
代表ナンバリングコード	CULT2430
単位数	2.0
時間割	秋学期: 金曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

## 担当教員

氏名
宮脇 永吏

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

講義・演習概要	<p>フランスの言語文化および芸術の多様性と革新性を理解し、実際に味わうための授業です。</p> <p>第二次世界大戦から現代まで、フランスの文化を牽引したさまざまな芸術・文学・思想運動を扱います。戦後の混迷の時代に生まれた、一見すると難解な文学作品や思想、抽象芸術などが、どのような企図・効果を持ち、現代社会を照らしてきたのかを考えていきます。戦前の表現方法と比較しながら、個々の作品における現れを実際に検討していくことで、一つの文化現象を多角的に捉えることができるようになるでしょう。また、言語文化がとりわけ20世紀フランスにおいてストーリーを読ませる物語としての機能だけでなく、多様な媒体に影響されながら視覚芸術や思想を内包し、言語芸術としての新しいあり方を模索したことが理解できるようになるでしょう。</p> <p>テーマ毎に取り上げる作品には、絵画・書画・小説・詩・演劇・映像作品等があり、必要に応じて映像による作品鑑賞も行います。</p> <p>作品の抜粋・映像資料等は日本語訳のあるもの（ない場合には講師による翻訳）を使用します。</p>
学習（到達）目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フランスの文化芸術と社会変化との関わりを論理的に説明できる。</li> <li>・多様な作品の内容について、単純な「好き・嫌い」や「きれい」といった感想ではなく、知識に基づいた意見を持つことができる。</li> </ul>

## 講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	戦争と芸術
第3回	演劇と異化効果
第4回	戦後演劇①：不条理の演劇
第5回	戦後演劇②：作品鑑賞・解説
第6回	ヌーヴォー・ロマン①：内的独白の手法
第7回	ヌーヴォー・ロマン②：作品読解・解説
第8回	これまでの振り返り コメント紹介、コメントへの回答
第9回	アンフォルメル絵画
第10回	具体美術協会
第11回	文字とイメージ
第12回	詩とイメージ
第13回	ヌーヴェル・ヴァーグの映画①：概説
第14回	ヌーヴェル・ヴァーグの映画②：作品鑑賞・解説
第15回	まとめ レポートの提出

## 成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	50%
その他	50%

成績評価の方法（コメント）	毎授業後にならず提出してもらった「振り返りアンケート」（コメントシート）を成績評価の対象（50%）とします。授業中に教員からコメントの紹介、コメントへの応答を行いますので、積極的に授業内容に関する意見を出してください。また、最終レポートを課します（50%）。
---------------	---

参考文献	都度、指示します。
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・ 事後学習 30 時間）	授業中に指示された抜粋を読んだり、映像資料を視聴したうえで、「振り返りアンケート」に回答するようにしてください。
備考(管理者用)	(旧：ヨーロッパ文化研究－フランスの言語文化と芸術) 02～10E・08～17L生読替